



# 月刊 千葉動力車

## 構内・仕業融合化阻止へ！ — ストライキで闘おう！

幕張電

二月一四日、千葉支社において、幕張電車区の構内・仕業の融合化計画の中止等を求めて団体交渉が行なわれた。

### 机上の論理だけで「効率化」

団交での当局の回答によれば、この攻撃により、「運転・検査の融合ダイヤ二徹五日勤」「運転ダイヤ二徹一日勤」「検査ダイヤ二徹四日勤」と、過半数の作業ダイヤが融合化されることになる。「融合化すれば、転線・仕業検査・転線作業の場合などに、同じ者が連続して作業にあたることができ、待ち時間が無くなって効率化が図れる」というのだ。

しかし、こんな理由は机上だけで通用する理屈に過ぎない。現在でも、外勤が転線作業にあたっている間は仕業検査班が待ちになり、仕業検査の間は逆に外勤が待ちになるなどというかたちで作業が行なわれているわけではない。しかも、構内作業は、日常の業務が作業ダイヤどおりに進むことのない職場だ。臨時の入換、特発、仕業検査、臨検対応等、たえず判断をしながら作業を進めていかなければ、車両の運用、列車の運行は行きづまってしまう。「効率化」だけを優先し続けたとき、現場に無茶を強いることだけになりつつある業務の運営がいつか行きづまってしまうことは明らかである。

### 重要な課題を全て放置！

しかも、構内の運転・検査業務は、事故発生の頻度が最も高い業務だ。これを融合化し、机上の論理だけでギリギリまで作業密度を上げたとき、構内事故のひん発は避けることができなくなる。車両故障も多発しており、現在必要なことは、融合化とは逆に、検査は検査として、車両の検査・修繕の体制を強化し、全くなおざりにされてきた技術力の養成を行なうことであるはずだ。

また、外勤職場は、永い間士職の高齢者対策の位置づけをもつて運用されてきた。今回の攻撃は、この位置づけを最終的に解体してしまおうとするものである。われわれは、こうした基本的な課題をすべて放置したまま融合化を強行しようとする攻撃を断じて許すことはできない。

### 根拠のない統合

また団交で当局は、構内・仕業詰所の本庁舎への集約・ワンフロアー化の目的について、次のように回答した。

- ① 職場としての一体感を醸成する。
- ② 効率的で働きやすい職場環境を実現する。
- ③ 冷暖房装置の改善により省エネ化を図る。

「職場の一体感の醸成」とい

うのは、この間の経緯からものはつきりしているとおり、「労務政策の強化」の別の表現に他ならない。また「効率的な職場環境の実現」などは全くウソだ。構内・仕業班は、本庁舎への統合によって、作業場所までの徒歩時間、パンスリ板自動計測装置等の連絡体制、修繕や工作が必要となった場合の作業場所等の問題を考えれば、極めて非効率になる。結局、理由らしい理由など何ひとつないのだ。

### 「予定はない」？

しかも、空いてしまうことになる構内・仕業グループの詰所については、次のようなデータもな回答しか返ってこない。

組 構内・仕業グループの詰所について、現場では車両整備会社に明渡す言われているがどう考えているのか。

当 はつきり言っているところ。そういうことは全くない。

組 だとしたら、現在の詰所を構内・仕業が使用し続けても問題は無いわけで、作業の効率化という面から言ってもその方がいいはずだと思いませんか。

当 現在の詰所については、冷暖房の工事などを行なう予定があるのだから……。

組 どうして、今後使用する予定もない詰所の冷暖房を整備するのかわか。

当 現在のところは予定はないが、結果としては、関連会社に貸し出すかもしれない。

### 全面外注の布石

結局、「予定は全くない」などとウソをつきながら、冷暖房まで整備して関連会社に明渡そうというのである。

こうした状況を見たとき、われわれは、今回の攻撃は、単なる融合化攻撃ではないことを見える必要がある。本社では、かつて一旦は頓挫した「構内作業の外注化」問題が、JR東労組との間でつめられていると言われている。われわれは、今回の融合化攻撃は「構内外注化」への布石であるとみて、検査合理化絶対反対の闘いを強化しなければならぬ。

### 組織破壊許すな

しかも、この間「職場活性化」と称したタライ回しの動労千葉・国労組合員の配転や鉄産労の送り込みなど、動労千葉幕張支部や国労分会の組織破壊を意図した攻撃が仕掛けられている。われわれは、今回の融合化を契機とした組織破壊攻撃の激化を断じて許さない。

分割・民営化から十年が経って、検査職場をめぐる矛盾が噴きだしている。今回の攻撃はこれに拍車をかけるものだ。幕張における構内・仕業の融合化攻撃を粉碎しよう！

